（十八日夕刊）

磐城新聞

料金（一部二錢、一ヶ月[illegible]、郵税[illegible]）
廣告料（一行五號活字[illegible]錢増）
發行兼編輯印刷人　遠藤[illegible]輔
福島縣平町四町目[illegible]
發行所　磐城新聞社

官吏俸給の手引

生活を脅かす現內閣

官吏一般の俸給減額が、たう〳〵實現した。現在の俸給は今年、この月も入れてあと三月限り。來年の年があけると一齊に減額。割合も高い方にならせば、大凡一割となる部合なさうできるが何ころものが、その日、衣食住充足に費ふ金なのであるから一割どころか五分でさへ大きに物をいふ。それをさうし上に成るとも一割以上になつて一割六分を目前に、累進率で減額するやうな次第なのであるから、その打擊は實に痛らしい。諸を官吏一般一人〳〵の口元からのぞいてはもう胸一ぱいまつて何ともへない。實に、昨今の窮といひない、深刻な經濟難の世相に、今更、なんとなくたゞ淚がにじみ出るのである。

がこゝで淚を流しては話が進まない。頭も鈍る。靜かに一身の利害を放棄して、この官吏減俸の是非曲直正邪善惡を考へるのがわれわれがこゝでの務めである。いふまでもなく、官吏でないものにはそしてこの不景氣になやんでゐるものには、今度のこの官吏減俸がいゝ氣味に見え勝ちである。がしかしさう考へてはならない。それでは一身の利害にこだはる。人の不幸を笑ふ心無さでもある。また實際に官吏減俸の影響が出るどその廻り廻つた結果はまるでこの事に關係のない、對岸の火だと思ふてゐた人達の懐に飛込んでもくる昨日は人の身、今日はわが身となるものである。で、さういふ風には思ふても見ないやうにしなければならぬ。その次は官吏一般といふても總理大臣とて、官吏ではあるがさういふ政治家達は別として、一般に行政務　官吏とあるがこれは當局のこの際の受難者連で前にいふたやうに個々別々の點ではこの際なんとも挨拶の申しやうもない。心あるものは豫て期したることではあらうが、それにしてもかう急速に事實が進展するとはまさかに思はなかつたらしい。しかし泣いてはなるまい。恨んではなるまい。すまじきものは宮仕へ時の內閣の方針で誰か何時首になるか解らぬ上にこの俸給大減額などと泣き言を出しては成るまい。畢竟するに世相である世運のめぐり合せであると腹をきめれば耐へる方法はいくらでも出て來やう窮迫の眞理は私經濟生活にもよく當てはまるはずである、この點になるといふ可きことも少くないないが、それはまた追つてのことにして次に政府現內閣であるが、これはこれだけの大仕事をよくもこの際やつてのけた。すこし早いあせつたのでないかとの疑念は出づるが鐵は熱するうちに鍛へてもといふし、眞の潮時は人に不意打を感せしめるやうな場合にあるのでもある。降ると見ば積らぬうちに拂へかし云々の極意にもかなふところがあるらしい。で時期方法ともにもちろんわれらに異見を持つ點も少くないが、大体において是認したい、いふまでもなくこれで政府現內閣は重大な義務を今後に負ふた親が子供の頭を打つてあとでしみじみ心やりの苦勞を味はふやうに、現內閣はこの先數段と骨折つて官界一般の善導に盡さなければならぬ。公私經濟の更新改善を促進しなければならぬ。この點とくに總理の深慮遠謀を望んで止まない。

それから一般經濟界への影響であるがこれはなんといふてもよく[illegible]。會高にしても八百萬圓といふ大金であるその性質に使ふか貯金するかどちらかになる金であるから、どの道經濟界をうるほすものである。それが、今度はそれだけ國庫から出なくなるのであるからこの際の經濟界としてはこの方面から見てもその影響打擊もさう見くびるわけにはゆくまい。まして、かうなると外に考へさせられることも多い。がそれにしてもゝう今日となつてはさう大したこともあるまい。たゞこのために更に一段と緊縮の美風が一般に行はれるこれが木枯らしと一所になる頃には向き向きともにかなり身にこたへやうが、それは國民全般として、とうに覺悟はきめてゐることで、政府が範を示して下爲民これに傚ふといふ、うな時代錯誤なことでなく、君民同治の精神でめい〳〵お互が相見互にこの經濟國難に當つてゆかうといふ氣に大分なつて來てゐる樣子であるから、その點は大きに氣が强いのである。で何にしてもこの官吏俸給減額問題は財政經濟全般に相關聯してゐてそれにいはば政治的社會的な見地からの批判もつけ加へ、かつとり交せねばならぬことで[illegible]まりに多岐複雜であるからの際は右の諸點にだけ論究善處を採ることゝしてあとはこれから折[illegible]一先づ筆を擱くの[illegible]

小說

死を超ゆる

（114

三上於菟吉作　布施平八郞畫

有爲轉變（二）

海は靜かで、殆ど聚いてゐないやうであつた遠く〳〵發動機船らしい小さい船が黑いけむりを吐きながら水平線に向つて消えて行くのが見えた

彼の女は悲しく解放を感じた。

自分をそりに入れてせめさいなんだ惡しき獸、今やわが身をそりに入れてしまつた、少くとも其のけだものが再びこの世に姿を現はすまでは自分の氣氛さは保たれるであらう。彼の女のやさしい胸は名ばかりと言へ良人と呼ぶ人の不幸を聞いて、なげくことの出來ない自分を責めて見ないではをられなかつたが、しかしその反省よりも至直な釋放の喜びの方が强かつた。

『若し……有罪になるとすればどの位の刑になるでせう？』と彼の女は訊いた

『さあ』と、秘書は首をひねつて氣の氣氛に言ふのであつた。

『今度の事件では、御主人一番不利な地位に立つていらしやるのです贈賄の額一番大きいし其の方ばかりでは無く、橫領罪、若しくは詐欺取罪の刑律が適用されないとも限りません、非常に有力な援助が官邊からでも來ない限り相當にまづ重いだらうと、よくは私もぞんじませんがそれを思つて居ります。まあ何に致せ困つたことになりましたが、斯ふ話がばちまかれたからは出來得る限りの一つ手を廻して援助を仰ぎもみ消せるだけの運動を外面から盡すつもりで私は只今いろ〳〵と主人側の方々にも御相談申てをりますが、何分かんじんの御主人が收[illegible]なつて未決にたいでになるので內部との交渉が思ふやうに捗どらず全く私もこれには困り拔いてをります」

とき子はいつまでも海の方を眺めて居た、ながい苦鬪が過ぎた後の病人のやうに、彼の女は不思議な放心を感じてうつとりして居た

『そう、そう困つたわね』

『然らば奥樣も直ぐ御歸京になりますか』

と秘書は重ねて訊いた

とき子は我に返つた

『わツ？』

と彼の女は聽き返した

『御歸京にならなくてはなりますまい、會社も、御本宅もひつくり返るやうな騷ぎです』

「でも私が歸つても……」

（さう言へばさうですが）

「そんならやつぱり歸りさすわ」と、とき子は言つた

間家には成り上がりの富豪の事とて別に大した親類もなかつたが周圍に相當な知人や知己もあることだしたとへ自分の本心がどうであつても良人の不幸を他に此まゝ此の土地に殘つて居るのは周圍に對して義理が濟まぬと考へたので彼の女はさう答へた。それ許りではなく、都の弟から、昨日淋しさうな葉書が來た事を思ひだしても居たのである間はとき子の身分が低いと言つて、彼の女の肉親が出入りする事をいつも嫌つて居たので「此年餘りゆつくり、弟の顏を見たさもかつた、丁度いゝ機會が到來[illegible]たものと心中[illegible]んと決心して居たので彼の女は都へ歸つて、今度こそ落ついて肉親の顏を見るであらう……。

映畫藝術に黎明來る人々よ見すや偉大なる此の寶二篇を

◇松竹蒲田超々特作映畫
◇井上正夫大熱演
森の鍛冶屋
無限な興味湧き出る大自然美溢る近來稀に見る一大無韻詩
原作　村上往三郎
監督　清水宏
助演
藤野秀夫
田中絹代
押本映治
結城一郎
高尾光子
小藤田正一
野寺正一
岡村文子
小村新一郎
日夏百合子
其他

◇日活新人派傑作品
◇水井完二郎…主演
由川正和…監督
劍士　白井權八　全
條讓、澤村春子、櫻井京子　助演
權八が若き日のいとすがすがかしき青春繪卷である

◇松竹提供[illegible]プロ大作◇
市川右太衞門…主演
古海卓二…監督
五條國枝
若月孔雀
任俠　小金井小次郎　全
原作…壽々喜多呂九平
武勇と俠差小次郎が壯年の旅に血と淚を劍に彩られた任俠刀劍劇

◇料金普通
◇十七日寫眞替
十七日　十九日　二十二日
晝夜二回
平館

萬屋貨物運輸部
電話二七三番
萬屋與一

毛糸
本年は昨年より御安う御座います
毛糸見本帳進呈
一オンス　十五錢　十八錢　二十五錢
（中細・極細・スコツチ等……澤山入荷致しました
平町田町　藤田女學校隣
ハシモトヤ糸店

內臟外科
外科一般
花柳病科
入院隨意（自炊の便あり）
平町田町大通り
安齋外科醫院
電話四三六番

◎診療開始
耳鼻咽喉科專門　日本醫大醫學士院長　鈴木正男
齒科口腔外科　日本齒科醫學士科長　高橋正永
◎晝夜診療
下谷區入谷町二九一
入谷改正通り東交番前六間通り
鈴木醫院

清酒釀造元
銘酒　世界一
吉　清水屋
石城小名濱町
小野晋平
各炭礦御用達
電話六番

夜間診療
胃腸
內科　十二指腸虫病　專門　內科部
外科　淋病　婦人病　皮膚病　專門　外科部
松村胃腸性病科醫院
（平南町電話一〇七番）

良品廉價に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅金物問屋
久　釜屋商店
諸橋久太郎
電話一三九番
振替貯金東京一〇九五六番
確實敏速は久の生命なり

あらが染
元祿
發賣元　株式會社朋友商會
△染色……確實
△使用……頗る簡便
△價格……低廉
定價…小瓶二五　中瓶三五　大瓶五〇
大販賣店
平町五丁目角
山野邊藥局

外科一般（入院隨意）
內臟外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

レコードは此のマーク！を
肉聲のビクターレコード
販賣店　會田時計店
平町五丁目（電話三六三番）
店員募集

外科
一般外科
泌尿科
婦人科
醫學士　海津俊一
X光線科
院長　木下寅一
新妻由五郎
赤心堂病院
平町田町電四七五

緊縮と輸入防遏
純國產品で正確堅牢なる
セイコー腕時計を
皆樣へ切に御薦め致します
◎宣傳の爲め抽籤特賣
一等　復興債券（額面百圓）六十本
二等　蓄音器（三笠號市價七十五圓）百二十本
三等　置時計（八日卷マホガミ市價三十五圓）三百本
四等　目覺時計（角形市價六圓五十錢）千三百五十本
五等　机上時計（市價一圓廿錢）五萬八千三百本
（期日十一月三十日迄空籤なし）
特約店　大谷時計病院
電話一一九番

內科診療
消化器病科　呼吸器病科
小兒內科　一般內科
入院應需（自炊ノ便アリ）
平町鼠坂
渡邊內科醫院
電話一六一番

磐銀更生の整理案
滿場一致平穩裡に承認
最大の誠意を示した白井元頭取
休業後初の株主總會

磐城銀行が單獨開業の基を成す初の株主總會は十七日午前十時より同行に於て開いた、白井元頭取を初め白井一郎、草野順平、小野晋平諸氏重役と出席、株主は人員出席百十三人此の株數八千二百八十五株、委任狀百十五人此の株數三千七百三十株の合計二百廿八人、一萬二千十五株で定刻元頭取白井博之氏議長席に就き

當銀行は財界の動搖の余波を受け不幸にして昭和三年五月二十二日支拂停止をなすの止むなきに陷り自然休業を繼續し專心整理に努めたるも多額の缺損と認むべきものを抱擁する爲め整理の進行意の如くならず荏苒今日に及び關係方面は勿論一般社會に對し多大の不安を感ぜしめたることは寔に申譯なき次第にして只管恐縮に堪へざる處である、茲に銀行甦生の方法として單獨開業の方針をとり主務省並に日本銀行の援助を乞ひ資本金の減增資積立金の取崩し及び重役は私財を提供し預金者各位に對しては甚だ不本意ながら壹割五分の切捨且つ其殘額に對し增資に伴ふ預金を株化するの御承認を願ひ又株主各位に對しては從來の資本金減額の御承認を求むる等以て立案の骨子となし整理案を作成したるものである重役の私財提供が二十五萬圓は僅少に過ぎるとの御批判もあるやに窺はれるが私は休業直前何とか難局を突破したい赤誠から私財全部を擔保として提供し全くの裸一貫となり今回の私財提供も最大の赤誠を示したものであるから何卒苦心を諒せられたい」と誠意の限りを披歷し愈々本議案の打議に移り

△第一號議案、第六十五、六十六、六十七期の損害計算の承認及び損失金處分の件

△第二號議案、整理案承認の件

△第三號議案、資本金減少に關する件

△第四號議案、定款第二第三、六、三十二、二十七條變更の件

△第五號議案、取締役及監査役滿期改選の件

を附議する處あつたが白井頭取以下各元重役の誠意ある整理案に對し一人の異論者もなく萬場一致平隱裡に承認し重役選擧を行つた結果左の諸氏當選一路甦生へ精進することゝなつて十一時四十分閉會したが新任の重役左の如し

（取締役）安島重三郎、白井博之、白井一郎、永山壽一、木田剛八、草野順平平澤內記

（監査役）小野晋平、大原喜太、山崎庫太郎

整理案の內容
大口貯金は株金に替へ
內容充實主義

磐城銀行が株主總會に提出した整理案の主點は預金百圓未滿は開業と同時に支拂ひ、百圓以上百十七圓六十五錢までは百圓を支拂ひ殘金は切捨是以上の分は一割五分を切捨公金預金は二ケ年据置き六ケ年に分割支拂ひ現資本金七十五萬圓を三分一の二十五萬圓に減じた上更に大口預金より八十三萬五千圓を株式に振かへ資本金を百八萬五千圓に增資し諸積立金五十五萬八千餘圓並に重役私財提供二十五萬圓を不良資產の銷却に充てると言ふにあるがその內容は左の如くである

△整理案

（昭和四年八月三十一日現在を基とす）

（一）無擔保債務の支拂方法（預金）

無擔保債務總額一、八六四、七五一圓七三九にして支拂方法左の如し

（イ）營業開始と共に百圓未滿は全額百圓以上百十七圓六十五錢迄は百圓を支拂ひ其殘餘は免除を乞ふこと、但し既往利子は免除を乞ふ事

百圓未滿の無擔保債務（同一人にありては各種預金を合算し百圓未滿一五八八口三五、三五二圓〇二九金額支拂のこと

百圓以上百十七圓六十五錢迄の無擔保債務一三〇口、一萬三千四百九十一圓五十錢に對しては一萬三千圓を支拂ひ殘餘四九一圓五〇〇は免除を乞ふこと

（ロ）前項以外の無擔保債務總額を差引たる殘額に對し一割五分の切捨を乞ふこと以上切捨を控除したる殘額の支拂方法左の如し

公金準公金團體預金其他は昭和六年十二月末日迄据置き以後七ケ年に分割支拂ふこと但し毎年十二月支拂ふこと

初年、二年目、三年目据置四年目より八年目まで各一割宛九年目二割十年目三割

送金仕向手形は開業と同時に支拂ふ

一般預金に對しては之を株式に振替へる事の承諾を求むること

二、擔保付債務の支拂方法

（イ）擔保付借入金の支拂但し未濟利子は免除を乞ふこと

擔保付借入金總額九萬圓の支拂方法左の如し

四萬圓　昭和五年十二月末日迄据置以後二年間に分割支拂（毎年十二月支拂のこと）但し利子は年三分に承諾を乞ふこと

五萬圓現在の擔保を以て決濟を乞ふこと

（ロ）擔保付預金の支拂、但し未濟利子は免除を乞ふこと

擔保付預金は現在の擔保を以て決濟を乞ふこと

（三）日銀特融借入金の支拂方法日銀特融借入金は昭和六年十二月末日迄すえ置き以後六ケ年間に分割支拂ふこと、但し利子は年二分（延滯利子共）に承諾を乞ふこと

四、減增資を實行すること

（イ）減　資

現在資本金七十五萬圓を二十五萬圓に減資をなし是より生ずる五十萬圓を不良資產の銷却に充當すること

（ロ）增　資

資本金額減少手續を了したる上は更に八十三萬五千圓を增加し（預金振替）資本金を百八萬五千圓となすこと

（五）諸積立金の取崩

諸積立金全部を取崩し不良資產の銷却に充當すること

（六）重役私財提供

重役は私財二十五萬圓を提供し不良資產の銷却に充當すること提供方法は預金の支拂保證七萬圓に預金の辨濟に充て殘一萬八千圓の內開業と同時に現金を以て一萬圓預金を以て二萬圓を提供し殘額六萬圓は昭和四年十二月一萬圓を提供し以後五ケ年間に毎年十二月一萬圓宛提供すること

（七）不良資產銷却方法

現在不良資產にし、缺損と認むべき一、七四七、五五八圓九五一及び整理に伴ふ行員解雇手當其の他諸經費一六、五四〇圓計一、七七四、〇九八圓九五一の補塡方法は左の如し

	圓
減資	五〇〇、〇〇〇、〇〇〇
諸積立金取崩	五五八、八九六、〇〇〇
重役私財提供	二五〇、〇〇〇、〇〇〇
大口無擔保債務一部免除	二四三、〇二八、七〇〇
營業用不動產價格引上	一三九、六〇三、七〇〇
現在繰越金	一八、〇七八、八八四
未收入利子の內	六四、四九一、六六七

以上資源により補償す

（八）經營の中心人物は人選を主務省及び日銀に依願すること

（九）經費を節約すること

支店出張所の廢合を行ひ經費の節約をなすこと、

小名濱支店、江名支店（存續）富岡支店、磯原、大津、平塚、長塚、浪江、豊間、四倉の各出張所（廢止）以上

附帶決議

一、本整理案に對し主務省の命令及び日本銀行特融借入金の交涉其他各債權者と折衝の結果相違を生ずる場合ことに單獨開業に支障を來さざる範圍に於て之が處置を重役に一任するものなり

二、本整理案は昭和四年八月三十一日現在を以て基礎數字となし作成したり本案の實行は本總會當日より切の日計表を以て基礎數字となすべく自然本案の數字は異動を生ずるものとす

石城弓道大會
香風會が優勝

石城弓道聯合會の第六回優勝旗爭奪戰は十五日午前十時より勿來町香風會道場に開催參加組は四名一組の八組と五十六名で香風會A組が一位を占め優勝旗は香風會が獲得した成績左の如し

優勝組（齊天目來香）（川久保潮香、金成修香、渡邊紫香）

一般射手一等金成修香、二等渡邊紫香、三等鈴木正次郎、四等以下略

判決を強いて曲解し
高橋の逆宣傳
下劣極まる態度嘲笑さる
大敷網事件後報

小名濱大敷網事件の判決は既報の如く白井氏の勝利に歸し同漁業は將來白井氏の手に於て經營され何人もそれを冒す能はざることゝなつたが一方原告高橋側は判決主文中に「賃借權を有することを確認す」とあるので之は將來に於ける賃借權を確認されたのだと頗る都合のよい解釋を下して悦に入り所謂耳を掩ふて鈴を盜む此の自己慰安が高橋氏は假令血の雨を降らしても來年は投網すると豪語して引上たが前記判決主文中の契約確認は當時縣の免許以前の契約を確認したもので現經營者白井氏と組合側の契約無效訴訟が理由相たゝずとして却下されてゐるのを見れば白井氏と組合の契約が有效であることに一點の疑もなく一面二重の契約を確認されたかの如く言はれてゐる此問題も適法の契約を了し現に大敷網を經營しつゝある白井氏と對抗することが出來ないのは勿論で來春投網期にまた〳〵横車を押さんと豪語した高橋側の無智は一般からその下劣なる心情を嘲笑されてゐるが石城民政黨は問題空發以來政黨的偏見から高橋側の太鼓を持ちつゞけて來た關係もあり今回の判決に對し照々たる事實を強いて逆に解釋宣傳してゐる事は骨稽千萬の至りである

眞正の基礎の上に
建て直る磐銀
地方經濟界の爲め歡迎
預金者も速かに承認

磐城銀行の單獨甦生案は別項の如く株主總會が滿場一致を以てしよう認し預金者のしよう認さい求むれば直ちに開業し得ることゝなつた、政黨的偏見より強いて同行の單獨開業を妨げんとする一部の者が裡面に蠢動してゐることも無いではない、預金者のしよう諾を完全に求むるまでには尚ほ多少の努力は必要とすべきも大体の世論は既に平銀行が常盤銀行に合併され爾餘の銀行もそれ相當濟界の打擊を免れない今日眞正の基礎の上に築き上げられる磐銀の單獨開業は年來の問題たる

[illegible]極めて容易なる基礎をなすべきものとして磐銀の甦生は相當期待されてゐるから各預金者も[illegible]或は容易に完全な整理案のしよう認を見る事が出來るものゝ如く一般に觀測されてゐる

出刄庖丁で
咽を突く
神經衰弱で

石城郡湯本町字八仙入山炭礦長屋居住古山武右衛門（四九）は不眠症を悲觀し十六日午前一時ころ自宅內で出刄庖丁を以て咽喉を突き自殺を企てたが急所をはづれ生命は取止めるらしい

四倉
稻荷祭典
二十日セメントで

四倉町磐城セメント會社の守本尊たる稻荷神社の例祭は二十日盛大に執行することゝなつたが餘興として芝居、活動寫眞その他の催しあり四倉町附近一帶はお祭り氣分に賑つてゐる

ベルリン便り

視察に忙殺せられ御無沙汰に打過ぎ申候段平に御免下され度く候一昨日來會議相初まり候へども言語不通にて更に興味を感ぜず候、明後日は終了の筈に付き廿八日には當地を去り歸朝する筈に之有候、船は何れも滿員にて閉口致て居り候、多分シヤトル發の汽船に可相成候

九月廿五日

ベルリンにて
木村清治

鈴木辰三郎樣

暗礁に乘り上げて
發動機船大破
きのう豊間漁港外一浬で
漁夫一名は不明

石城郡豊間村大敷網阿部彥次郎氏所有發動機船は船長神田勘之助外十數名を乘せ十七日午前十時歸港の際豊間築港を距る一浬の所で暗礁に乘り上げ船体は滅茶〳〵に紛さいし乘組員悉く激浪に呑まれんとした所を非常警鐘を亂打し消防組、青年出動し救助に努め始むを救助したが島出熊太郎（三一）は遂ひ姿が見れず探海中であるが尚は見當らない

如來寺庫裡
七千圓で新築

四倉町如來寺住職高野[illegible]島支部長小松學俊師は多年の宿望たる庫裡新築準備中の處各方面の寄附金も意外に多く集まつたので約七千圓を投じ愈々二三日中に着工することゝなつた

大和田醫院
二十日落成披露

平町南町大和田耳鼻咽喉科醫院では院務の隆昌につれ狹隘を感じ巨費を投じ昨年來新築工事中のところ全く竣工したので來る二十日午後五時より落成披露の盛宴を張ると

平第三校
敷地問題
圓滿解決可能

平第三小學校敷地問題は既報の如く縣議鈴木辰三郎氏が地主齋藤繁藏氏に對し平當局の決意を示し最後の交涉をなしたところ齋藤氏も稍軟化し[illegible]局所有地六百坪を坪三圓で買收するか或は平警察署脇の平町有空地六十七坪（時價坪四十三圓）と交換によつて近く圓滿解決するものと見られて居る

自動車檢査
今度は嚴重に
けふから始る

平、四倉、植田の各警察署管內に於ける自動車の車体檢査は十八日から三日間平町八幡小路の舊磐中グランドに於て執行されたが自動車事故の頻發は車体の不良に原因するところ多いので特に今回は嚴重な檢査をなしてゐる

公金委員會
整理案承認
けふ訓盲院で

磐城銀行甦生案に基く各町村の預金は別項所報の如く三ケ年すい置六ケ年拂ひによることゝなし株主總會承認を受けたが各町村公金委員會では十八日午後一時より磐城訓盲院に於て協議會を開き對策を協議中であるが本稿締切りまでには何等の具体的纒まりを見ないが銀行の整理案をしよう認することゝなるらしい

磐新塔

石城郡大浦村大浦信用組合が四倉製絲場からの依賴で保管して居た繭四百石紛失事件は平檢事局の活動となり同組合書記早川鐵次郎及同村製絲會社力進番雇人小池秀廣の兩名が嚴重なる取調を受けた結果兩名は今回背任罪に略式命令を以て各罰金百圓に處せられて落着したが繭四百石の値段は一石六十圓と見て實に二萬四千圓の巨額に達した該金某選擧費用に投じられたと傳へられるだけにこの處罰は一般から非常に注目を受けた

營業部員

年齡二十二歲以上、身体强健にして新聞業務に趣味を有する眞面目なる營業部員一名を募集す希望者は履歷書持參本人午前中本社あれ、給料その他委細面談

磐城新聞社

營業部員 助手募集

年齡十八九才以上にして
新聞擴張員貳名募集
（經驗有無に不拘相當なる手當を給す）
（平町在住者に限る）

磐城新聞社

牛ブタ肉大賣出し

平町 三三屋肉店 四倉支店

肉の氣節に入りました召上る節は本町一三七番地の三三屋に御出で下さい

三三屋四倉支店
電話呼出（五五七一）

生花教授

一、家道家元池之坊生花教授
自宅教授（一週一日月曜日）致します
一、御希望により出張教授も致します

照香園
竹內蕉月
四倉町本町八番地

內科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科、梅毒、淋疾
皮膚、病　市原三三男

平町田町大通
市原醫院
（入院隨時）　電話一一四番

新築落成

耳、鼻、咽喉科（專門）
氣管食道科

平町南町（舊診療所向側一七〇番）
大和田醫院
大和田郡司

自炊の便あり

懷中電燈類乾電池
眼鏡各種レンズ
奉仕的特價に致志ます
時計蓄音器の修理
御用命は
高橋時計工作所
平町土橋通り
大々的勉强示時正確